

認定こども園 神戸鹿の子幼稚園

平成 29 年度 学校評価

1. 本園の教育目標

健康な体をつくり、情緒ゆたかにして積極性のある行動力を育て、心身共に健やかで社会に適応できる子どもの育成に努めます。

2. 重点的に取り組む目標・計画

- 園児の意欲の向上
子どもの主体性を意識し、自分の意志で活動に参加し、意欲的に取り組むことのできる環境を整える。
- 国際感覚の養成
異文化と触れ合うことで、ものの考え方や価値観、視野を広げるとともに日本文化について再認識する機会を設ける
- 健康面・衛生面における強化
体力面では身体能力の向上、衛生面では感染症防止に努め、学級閉鎖の発生回数を昨年度より減少させる。
- 園内の安全を体制の再構築
今夏の園庭リニューアルを含め、園生活を安全・安心に過ごせるよう、既存の安全管理システムを再構築する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

番号	取り組み	具体的な内容と成果
3	体育指導	講師の指導方法や、本年度のクラスカラーを考慮し、年長組担当と年中組担当の講師を入れ替えて体育指導を行った。 年長組の指導にはマットの後転、鉄棒、年長組と年中組ともにボール遊びの指導を導入した。 結果、その後の正課における担任の指導がスムーズにいき、子ども達の活動の幅も広がった。
1	バンビルーム	朝・昼休みの時間を利用し、製作や絵・ダンスなどプログラムを組み、子ども達が自由に参加できる環境を整えた。 様々なプログラムが用意された中、子ども達が自分の意志で活動に参加する姿が見られた。
2	海外インターシ ップの受入	6月と7月の2ヶ月間、メキシコからルイス・フェルナンデスさんを招聘した。各クラスで母国の写真や玩具、踊り、歌など紹介してもらい子ども達と交流した結果、子供達だけでなく、本園の職員もメキシコへの興味や関心が高まった。9月にメキシコの大規模な地震発生した際は、ルイスさんの安否を気遣うなど、意識の広がりを感じた。
3	乳酸菌飲料による 感染症対策	手洗い・うがいの重要性の意識を高めつつ、平成29年11月から平成30年2月までの4ヶ月間、乳酸菌飲料を給食時に飲用し、感染症予防に努める。 昨年度の学級閉鎖は2回であるが、本年度はまだ1回も発生していない。
4	ヒヤリハット研修	ヒヤリハット報告書を作成し、職員のヒヤリ・ハットとした経験を提出してもらい、職員研修の一環として分析を行った。各対応策を講じ、順次解決していつている。 また築山、ガチャポンプ、ジャブ池が新設されたことを受け、新たな遊具指導を考案した。

4. 学校評価の具体的な計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
概ね達成されている	前述の「3. 評価項目の達成及び取り組み状況」より明らかである。 また、本理由の根拠となる保育内容の改善と保護者との話し合いの議事録を参考資料として添付する。

5. 今後の取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み状況
教員研修の充実	○ 認定こども園に移行し、勤務シフトの関係上、園外に出での研修を受けにくい状況であるため、園内研修を増やし、資質能力向上に努める。

6. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

7. 情報公開

本学園ホームページに基本的な情報を積極的に公開している。


アドレス… <http://kobe-kanoko/net>

8. 学校関係者の評価

評価委員からは「概ね良好な運営をされ、学校評価にも積極的に取り組み、特に指摘すべき事項はなく、妥当である。」と認められた。

学校評価委員

片山 喜章 

中西 利栄 

大和 晴行 